

小学校教員養成における「国語科教育法」のあり方 —「文字なし絵本」を用いて—

How the Japanese Language Teaching Method Should Be in Elementary School Teacher Training : Using a “Textless Picture Books”

徳永 加代¹

TOKUNAGA Kayo

本研究では、国語力の中核の一つである「想像する力」を育成する小学校教員養成における「国語科教育法」のあり方について、考察していく。筆者が担当する「国語科教育法」において、「文字なし絵本」を用いた創作活動を行った。その結果、「想像する力」を育成するためには、指導者が豊かな「想像する力」を身につけることの必要性が明らかになった。

1. はじめに

文化審議会答申（2004）「これからの時代に求められる国語力について」には、国語力の中核を成す領域について、次のように示されている（引用中の下線は論者が添えた。以下同様）。

この領域は、「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」の四つの力によって、構成されている。これらは、言語を中心とした情報を「処理・操作する能力」であり、国語力の中核と考えられるものである。

また、この四つの力が具体的な言語活動として発現したものが、「聞く」「話す」「読む」「書く」という行為であると考えられる。日常の言語生活の中では、この「聞く」「話す」「読む」「書く」という言語活動が様々な状況に応じて、複雑に組み合わせられて用いられている。

国語力の中核の一つである「想像する力」について、同答申では、「経験していない事柄や現実には存在していない事柄などをこうではないかと推し量り、頭の中でそのイメージを自由に思い描くことのできる力である。また、相手の表情や態度から、言葉に表れていない言外の思いを察することができるのも、この能力である」と定義づけている。つまり、「想像する力」は、様々な物事や他者を理解していくために必要な力であるといえよう。

ヴィゴツキー（2002）は、想像力を育成することについて、次のように論じている。

結論にあたって、学齢期に創造性を培うことの重要性を指摘しなければなりません。人間は未来のことはみな創造的な想像力の助けをかりて理解します。すなわち未来を見定め、その未来に依拠し、そして未来から発する行動は、想像力の最も重要な機能です。ですから、教育者の指導の基本的な教育姿勢が、児童生徒を未来に向かって準備する路線で彼らの行動を方向づけることであるかぎり、この想像力を発達させ、練習することは、その目的の実現過程にとって基本的な力の一つなのです。

¹ 帝塚山大学 教育学部 教授

未来を志向する創造的な人格は、今、具象化される創造的な想像力によってつくられるのです。

「人間は未来のことはみな創造的な想像力の助けをかりて理解します」とあるように、「想像する力」は、これから起こるであろうことやどのように行動すればよいのかということを描くなど、将来の状況やあるべき姿を予測したり、見通しをもって行動したりする原動力になる。幼児期から、豊かな体験や他者と積極的に関わりながら遊びや言語活動を通して、「想像する力」を培っていくことが重要である。

『小学校学習指導要領』(2017)国語においては、「思考力、判断力、表現力等」の各学年の目標に、第1学年及び第2学年では「感じたり想像したりする力を養い」、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年では「豊かに感じたり想像したりする力を養い」と明記されている。では、どのようにして「想像する力」を養っていけばよいのであろうか。

川嶋(2019)は、「学習指導要領における想像力とは、社会の変化に対する国の要請に応えるものとして重要視されていると見ることができるとは、想像力をどのように育成していくのかということについては明確になっていない」と指摘している。

田中・三樹(2013)は、高等学校国語科における想像力を伸ばす学習指導について、論理的な「想像」を促すための条件を「①その前提として、教材に対する理解を深め、教材を根拠として用いられる状態にしておくことが必要である。②「情報」の「送り手」(表現者)の側に立たせ、「読み手」を想定して「いかに表現するか」を考えさせることが効果的である。③学習者に「自分が判断する」という意識を喚起し、その根拠を明らかにさせる必要がある。」と、3項目に整理している。

萩原(2023)は、中学校国語科における想像力の育成について、「生徒一人一人の読みや思いを教師が受け止めながら、解釈に差異の生まれる課題を設定することで、文章を根拠としたお互いの解釈についての対話となり、対話の質が高まることに加え、言葉から想像していくという想像力の育成にも繋がる」と述べている。

「生徒一人一人の読みや思いを教師が受け止めながら」に注目したい。小学校国語科においても、「想像する力」を育成するためには、まず、教材に対する理解研究を深め、自由な発想を大切にされた情報の送り手になる言語活動を設定することが必要である。一人一人が考えを伝え合い、認め合いながら高めることができるよう、指導者自身がそれぞれの思いを受け止めながら、適切な発問ができるよう「想像する力」を身につけておかなければならない。

これらの先行研究をふまえ、本論では、筆者が担当する「国語科教育法」において行なった「文字なし絵本」を用いた創作活動を通して、小学校国語科における「想像する力」を高める学習指導法について考察する。

2. 「国語科教育法」について

「国語科教育法」は、小学校教員免許状を取得するための必修科目である。本学では、3年生前期に開講されている。履修者は、『小学校学習指導要領』に基づき、国語科の目標と内容を学ぶと共に、学習指導案の作成や教材研究などを通して実践的な指導方法及び各種教材について学ぶ。さらに、様々な言語活動および我が国の言語文化に関する事項の指導方法について学ぶ。9月からの教育実習に資するための基本的知識を身につけるのである。シラバスに示した授業の到達目標は次のとおりである。

○小学校国語科教育の目標・内容・方法・評価について理解し、国語科指導ができるようになる。

○国語科指導に必要な教材研究等が主体的にできるようになる。

関連する科目として、2年生後期には、必修科目「国語科研究Ⅰ」が開講されている。小学校の国語科の全体的な体系を理解し、実践において必要な視点を学び、指導についての理解を深め、国語科に関する様々なテーマを研究する。国語科の個別のテーマに関する必要な知識を学び、自ら指導をする上での基盤となる力を身に付ける。

4年生後期には、選択科目「国語科研究Ⅱ」が開講されている。国語科の概要を理解し、教材に関しての分析を進め、内容面や様々な表現についての理解を深め、実践的な国語能力を身に付けるのである。

3. 「国語科教育法」の実際

筆者が担当する「国語科教育法」において行った言語活動を通して、小学校国語科における「想像する力」を高める学習指導法について考察する。

3.1 「国語科教育法」の概要

学生が主体的に学び、実践的指導力を育成していくためには、教材研究、言語活動を通して学び合う授業を展開していく必要がある。毎回、事前課題において様々な教材研究を行い、言語活動を通して実践的に学ぶことを展開した。教材開発の力をつけるために、「おすすめの一冊」の紹介、ポップづくり、ビブリオエッセーなど、読書活動につながる課題を設定した。表1は、2023年度前期に実施した「国語科教育法」の授業内容、主な言語活動、次回までの課題である。

授業では、次の3点について重視した。

① 「想像する力」を高める視点から教材開発・教材研究を行うこと。

国語科教育では、指導者がその教材を使って、学習者にどのような力を身につけるのかを常に念頭において、授業を展開しなければならない。そのためには、教材研究を深め、教科書教材だけでなく教材と関連した資料を集めておく必要がある。それらの資料を用いることにより、学習内容に興味を持たせ、読書や発展的な学習へと広がることが可能になる。視野を広げて様々な情報を収集する力を身につけることは必要不可欠である。

② 「想像する力」を高める言語活動を通して学び合い、授業展開を考えること。

『小学校学習指導要領』(2019)に示された〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項については、領域ごとに例示された言語活動を通して指導することが示されている。言語活動を通して、学習者の中にどのような「学び」が生まれ、それがどのように深まっていったか、体験しながら身につける力を踏まえた授業展開を考えることができる。

③ 相互評価・自己評価を行い、「想像する力」を高める指導と評価について考えること。

学習者のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習者が身につけた力を実感できるようにするために、相互評価・自己評価が大切である。相互評価においては具体的な評価の言葉を書くことを重視し、学習者の学びの状況に応じて、助言や賞賛などを通して指導していくことを実感しながら、指導と評価の一体化について考える契機とする。

表1 2023年度「国語科教育法」の概要

回	内容	主な言語活動	次回までの課題
1	『小学校学習指導要領』国語科の目標、内容について理解する	○小学校の国語の時間、どのような学習をしたのかを伝え合う。 ○川柳「うそ」を詠む。	「どきん」(光村図書 三年生)の鑑賞文を書く。 テーマ投稿「最近のニュースで気になったこと」を400字程度で書く。
2	教材研究・音読について理解する。 教材「春の子ども」(東京書籍3年)「どきん」(光村図書3年)「春のうた」「光村図書4年」	○「春のうた」「どきん」を音読し、相互評価した後、自己評価する。 ○ペアになり鑑賞文をもとに「どきん」の授業内容を考える。	「どきん」の主な発問と予想される児童の反応、板書計画を考える。
3	発問・板書について理解する。 教材「風切るつばさ」(東京書籍6年)	○ペア(先生役と児童役)になり「どきん」の授業を想定した発問を行い、相互評価した後、自己評価する。 ○「風切るつばさ」を読み、人物関係図を考え、伝え合う。 ○川柳「母」を詠む。	6年生に読ませたい人物と人物の関係を描いた物語(絵本)を選び、人物関係図を書いて紹介できるように準備する。
4	「読むこと」文学的文章(物語)の学習指導法について理解する。 教材「風切るつばさ」(東京書籍6年)	○ペア(先生役と児童役)になり、6年生に読ませたい人物と人物の関係を描いた物語(絵本)を人物関係図を使って紹介し、相互評価した後、自己評価する。	選んだ6年生に読ませたい人物と人物の関係を描いた物語(絵本)のポップを作成する。 ビブリオエッセーを600字で書く。
5	読書指導の改善・充実について理解し、読書活動について考える。 教材「本をみんなにすすめよう」(東京書籍4年)	○ポップを展示して読み合い、一番読みたくなったポップを選ぶ。 ○ビブリオエッセーを読み合い、相互評価した後、自己評価する。 ○各学年における読書活動を考えて伝え合う。	「新聞を読もう」(光村図書5年)の主な発問と予想される児童の反応、板書計画を考える。
6	「読むこと」説明的文章の学習指導法について理解する。 教材「新聞を読もう」(光村図書5年)	○ペア(先生役と児童役)になり「新聞を読もう」の授業を想定した発問を行い、相互評価した後、自己評価する。	「夏の楽しみ」(光村図書4年)に掲載されている季節の言葉を小学校4年生に説明する準備をする。
7	漢字・語彙の指導について理解する。 教材「夏の楽しみ」(光村図書4年) 「今、あなたに贈りたい漢字コンテスト」ワークシート	○同じ言葉を選んだ人が4人グループになり、選んだ言葉を交代で説明し、相互評価した後、自己評価する。 ○語彙指導のアイデアを伝え合う。	「同じ読み方の漢字」(光村図書5年)の主な発問と予想される児童の反応、板書計画を考える。
8	「話すこと・聞くこと」の学習指導法について理解する。 教材「きいて、きいて、きいてみよう」(光村図書5年)	○「同じ読み方の漢字」の授業を想定した主な発問を行い、相互評価した後、自己評価する。 ○川柳「机」を詠む。	友達の人柄や魅力を引き出す質問を5つ以上考える。
9	「話すこと・聞くこと」の学習指導法についてインタビューを理解する。	○3人グループになり交代でインタビューを行う。1人はインタビューのモニターを行い、よりよいインタビューの仕方についてメモする。	インタビューしたことをもとに紹介文を600字で書く。

10	「書くこと」の学習指導法について理解する。	○紹介文を読み合い、推敲する。 ○推敲したことをもとにペンで硬筆を意識して清書する。	「文字のない絵本」を一冊選び、お話を考える。
11	国語科の授業づくり、学習指導案の書き方について理解する。教材「じどうしゃくらべ」(光村図書1年)	○「文字のない絵本」の読み聞かせをする。学習指導として展開する際のポイントや留意点について確認する。	「水のころ」(東京書籍5年)「いま始まる新しい今」(東京書籍6年)「春に」(東京書籍6年)「せんねんまんねん」(光村図書6年)の中から一つ選び、学習指導案を作成する。(14回に提出)
12	書写の学習指導法について理解する。毛筆書写の基礎を確認する。教材「永字八法」「林」	○ペアになって、毛筆書写の基礎を教え合い、相互評価した後、自己評価する。 ○4人グループになって「林」を一人一画ずつ書き、相互評価する。	好きな「のはらうた」を選び、ワークシートに硬筆で散らし書きをする。 「たのしみは…」ではじまる短歌、夏の俳句を創作する。
13	書写の学習指導法について理解する。毛筆の散らし書きによる創作作品を作成する。教材「のはらうた」	○自分が創作した「たのしみは…」の短歌を仮名半紙に書く。 ○自分が選んだ「のはらうた」を全紙に書く。 ○川柳「プール」を詠む。	自分が選んだ詩の授業ができるように、発問を工夫し練習する。
14	詩のミニ模擬授業を通して、授業づくりについて確認する。	○ペアになって詩のミニ模擬授業を行い、相互評価し、改善点を考える。	テーマ作文「願い」を800字で書く。
15	国語科における情報の扱い、ICT活用場面について理解する。	○「願い」を読み合い、相互評価する。 ○4人グループになって、詩のミニ模擬授業を行い、相互評価した後、自己評価する。 ○川柳「虫」を詠む。	テーマ投稿「最近のニュースで気になったこと」を400字程度で書く。 学んだことを振り返り、実習において実践する。

3.2 「国語科教育法」の成果と課題

学生の振り返りから「国語科教育法」の成果と課題について考察する。

表2は、学生が考えた「国語科教育法」において学んだこと・身についた力である。

表2 学生が考えた「国語科教育法」において学んだこと・身についた力

授業で重視したこと	学生が学んだこと・身についた力
①「想像する力」を高める視点から教材開発・教材研究を行うこと	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究を行う力 ・国語の教材研究について考えられるようになった ・教材研究がわかりやすい授業づくりにつながる ・関連図書を調べる力 ・板書計画を立てる力 ・学習者の反応を考えながら発問を考えること
②「想像する力」を高める言語活動を通して学び合い、授業展開を考えること	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニ模擬授業を何度も行い、学習者の答えから発問を考える力 ・子どもたちの語彙が増えるような活動を考える力 ・導入、授業構成、発問など指導の仕方 ・言葉の大切さや言葉を使うことの楽しさ ・川柳づくりから想像力 ・学習者に何を身につけてほしいのかを考えて授業展開する力 ・「文字なし絵本」のお話を想像することで言葉の力がつくこと

③相互評価・自己評価を行い、「想像する力」を高める指導と評価について考えること	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに何を身につけて欲しいのかを考える力 ・友達の意見を聞くことで想像が広がる学びにつながる ・コメントすることやよい点を見つける評価活動をするにより、個に応じた指導の仕方考えること ・「〇〇大賞」を選ぶ活動も評価活動であること
---	---

① 「想像する力」を高める視点から教材開発・教材研究を行うこと

毎回、次回までの課題として教材研究を行い、教材研究の仕方について理解できたようである。毎回の言語活動を通して、教材研究がわかりやすい授業づくりにつながることを実感している。学習者の反応を考えながら発問を考えるためには「想像する力」が必要である。様々な角度から考えることができるようにより細やかな教材分析力が求められる。関連図書を調べることはできるようになったが、教材開発までは至らなかった。

② 「想像する力」を高める言語活動を通して学び合い、授業展開を考えること

様々な言語活動を行い、交流を通して主体的に学ぶ力をつけたことがうかがえる。短歌、俳句、川柳づくり、文章の読み取りなど、感性を磨き「想像する力」を高めることも国語科にとっては重要な学習であることを学んでいる。また、ミニ模擬授業において、予想していた以外の反応に対して、どのように答えて次につなげていくのか、教えることの難しさを実感したようである。

③ 相互評価・自己評価を行い、「想像する力」を高める指導と評価について考えること

その場で感じたよかったことを伝え合う評価活動を行い、授業の雰囲気作りも体験した。指導者は、授業において、瞬時に一人一人のよさを見つけ、コミュニケーションしながら授業を展開していく。相互評価をふまえた自己評価をすることを通して、指導者の立場に立って考え、言葉の大切さに気付いていくのである。評価をされる気持ちを「想像する力」が大切になる。

このように、学習者の実態を把握し、考えや思いをしっかりと受け止めるためにも指導者自身の「想像する力」をどのようにして鍛えていくのかは、今後の課題である。

4. 「文字なし絵本」を用いた「想像する力」を高める言語活動の考察

「文字なし絵本」は、扉ページの次ページから、奥付の前ページまで一切文字がない絵本である。絵が物語る言葉を読者が想像しながら読み解いていく。時間軸に沿って場面が展開する場合は、読者が主人公になりきって物語世界に入り込むことが容易になる。今回は、想像力を高める教材として活用した。

「文字なし絵本」を用いたお話作りを通して、「想像する力」を身につける国語科学習指導の有効性について、言語活動の流れに沿って考察する。

(1) 読み聞かせをしたい「文字なし絵本」を選び、お話作りを行う。

はじめに、お話作りに必要なことを考えた。

図1は、「学生が考えたお話作りに必要なこと」

である。学生は、これらが物語文を読み取る時のポイントであることに気がつき、「読むこと」の指導項目を確認していた。「読み手のイメージが膨らむような言葉」から、相手意識を持って想像を膨らませながらお話を作ろうとしていることが伝わってくる。

次に、「文字なし絵本」の絵を見ながらお話を考えた。

図1 学生が考えたお話作りに必要なこと

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物・主人公 ・テーマ設定 ・5W1H ・起承転結 ・主人公の心情 ・会話文 ・絵を読み取る ・何が起きているのか想像する ・人物の視点 ・読み手のイメージが膨らむような言葉 |
|---|

「絵本の絵にとらわれず、自分で想像をふくらませて物語を作っていくことで楽しい絵本になる」「絵本の端までしっかりと見て、細かい描写からも着想を得ることで物語に深みが出ると感じた」という学生の振り返りの言葉から、絵を読み解いていくことを楽しむ姿がうかがえる。

(2) 選んだ「文字なし絵本」を読み聞かせする。

4人グループになり、「文字なし絵本」の読み聞かせを交代で行った。できるだけ同じ本を選んだもの同士がグループになり、それぞれの想像したことを伝え合い、自分の作品と比較できるようにした。



図2『あかいふうせん』表紙

図2『あかいふうせん』（イエラ・マリ作 渡辺茂男解説 ほるぷ出版1976）は、時間の流れと変化を描く、形の変容とイメージの連鎖が楽しい絵本である。男の子のふくらませた風船がリンゴ、ちょう、お花と変わっていく。ページを開くごとに新しいできごとが、リズムを持って展開していく。多くの学生が選んだ「文字なし絵本」である。

表3は、学生が考えた『あかいふうせん』のお話である。

お話作りの工夫について、学生Aは「読んだ人も、物の見方が変わるのではないかなと思い、視点を男の子にするのではなく、風船ガムにして、擬人化した」学生Bは、「そのままの絵面で解釈しないこと。常に見方を変えて、こういう見方も確かにできるな、という見方を狙った」と述べている。擬人化したり、見方を変えることを狙ったり、読み手の「想像する力」を引き出ししながら、お話を一緒に作り上げようとする学生の意図が感じられる。

表3 学生が考えた『あかいふうせん』のお話

見開き	学生Aが創作したお話	学生Bが創作したお話
1	僕はいちご味の風船ガム。将来の夢は本物の風船になること。いつかふわふわ飛んで色々な世界を見てみたい。だから今、一生懸命練習してる。	チュンパチャンプスは棒から食べるのが一番おいしいなあ。
2	今日とはとても調子がいい。はじめてこんなに大きくなった。このまま本物になれないかな。	あっ。肺活量がすごすぎてあめ玉も膨らませちゃった。
3	あっ。	僕たち仲良し。寝るときも一緒なんだ。
4	風船になれた。僕は自由だ。これからどこに行こうかな。	仲が良すぎて、毛が生えてきたときもある。赤い風船みたいだ。
5	赤色といえば、りんごかな。僕はガムからできているから好きな形になれるんだ。ほらね。あの木とお話してみたいな。「こんにちは」	赤い風船はリンゴになりたいみたい。残念だがここでお別れのようだ。
6	「こんにちは。よく来たね。君はリンゴかい？」 「ううん。僕は風船ガムからできた風船だよ、さっき自由になれたんだ。」 「そうか。でもここはとても風が強いからあぶないよ。」 「そうなんだ。じゃあ別のところへお散歩してくる。」	あれから数年、僕の友達は、今はリンゴとしてうまくやっているらしい。
7	「さようなら。次はどこへ行こうかな。色々な所へ飛んでまわれるものになりたいな。」 そう だ。	そんな彼もとうとうリンゴに飽きたみたい。数年ずっと実りっぱなしだったと考えると不気味だよな。
8	ちょうちょ。ちょうちょになればどこまでも行けるかも。	「ごめんね。虫さん。急に視界が赤で埋め尽くされてビビったよね。」

9	ちょうちよって何してるんだろう。お花のみつをすっているのかな。 あの辺のお花と話してみたいな。「こんにちは」	「今度は僕が虫になる番だ」
10	「こんにちは。よく来たね。君はちょうちよかい?」「ううん。僕は風船ガムからきたちょうちよだよ。さっき風船になってふわふわとんできたんだ。この辺にお花はないの」「僕たちは草なんだ。もしよかったら、君が花になってくれない。」「いいよ。私がお花になってあげる。」	ヤバイ。とがっているものが多すぎる。どこにも止まらない。
11	「どう。きれいでしょ」 「とってもきれいだね。でもそんなにきれいだったら…」	「花になるかもしれない。」
12	「あっ、せっかくお花になってお友達になれたのに。さようなら。またどこかで。」「さようなら」	「やあ、久しぶりだね。」 「あ、あんたは。」
13	「あれ。君って…」「きれいなお花みいっけ。お家に飾ろう。」	「少し見ないうちにずいぶん変わったね」「君も相変わらず髪の毛には恵まれないみたいだ。頭守れないよ」
14	「なんか雨降ってきそう。今日傘もってないか。どうしよう。」「僕がなってあげよう」	「なんだそんなことなら心配いらぬ。だって君がいるだろう」 「ああ、確かに。これからは僕に任せてくれ」
15	「あれ。お花が傘になった。不思議だなあ。お花さん、ありがとう」	「ちょうど雨が降ってきた。頼めるかい。」「ああ、もちろん。任せてくれ」

読み聞かせの工夫について、学生Aは「木や草など、後ろの方では見にくいいため、指差しをする必要があると思う。また、最後のページは、無言であるため、何も言わずに聞いている人に想像させるように工夫する必要があると思う。そして、カギカッコがたくさんあるため、誰が話しているのか、指差しをしたり、声を変えたりする必要があると思う」、学生Bは「自分が見ている景色を共有できるように、『〇〇だよ』など、状況を確認する言葉かけを行う」と考えている。

このように、絵を見てお話を考えることから「想像力」「語彙力」、それを相手に伝えることから「表現力」や「コミュニケーション能力」が身につくといえよう。

読み聞かせを聞いた学生は「絵の説明だけでは物足りないということに気づき、見えるものの説明も大切だが、そこに感情や思いをつけることで絵本の良さが引き出されると感じた」「それぞれで全く違った内容や言い回しで、それだけ絵本は人によって受け取り方や感じ方が違う。だからこそ、読み聞かせをしているときの子どもの反応を大切に、絵本に合わせて語りかけてみたり、あえて読むだけにしたりと、読み手によっても絵本の印象が変わることを学んだ」と振り返っている。さらに、子どもの反応を大切に感情や思いをふくらませていくことを通して、「想像する力」が高まっていくのである。

このように「文字なし絵本」を用いた創作活動により、絵を読み解きながらお話を考える「想像する力」「語彙力」、読み聞かせにおける「表現力」「コミュニケーション力」が身につくことを学生は実感している。どのような教材や学習活動が「想像する力」を育成するのかを考える一助になったであろう。

5. まとめ

小学校国語科教育において「想像する力」は、言葉や文章を通じて物事を理解し、表現するための力を養う上で欠かせない。幼児期から絵本の読み聞かせなどにおいて、登場人物の気持ちを想像したり、主人公になりきってお話を考えたりなど「想像する力」や言葉の力を育てている。小学校では、そのことを踏まえて、国語科を中心に想像したことを言葉で表現できるように指導したい。

本論では、「国語科教育法」における様々な言語活動、とりわけ「文字のない絵本」を用いたお話作りについて、考察を行い、学生が「想像する力」を高めていくことが認められた。

「想像する力」を育成するためには、様々な教材を用いて、様々な言語活動を行う必要がある。そのためにも、豊かな「想像する力」をもつ指導者を育てることが重要になる。

これらのことを踏まえ、よりよいものを求めて絶えず学び続ける教員を育成するために、実践的指導力を育成する言語活動について研究を深めたい。

引用・参考文献

- イエラ・マリ(1977)『あかい ふうせん』ほるぷ出版
- エリ・エス・ヴィゴツキー著 広瀬信雄訳 (2002)『新訳版 子どもの想像力と創造』新読書社
- 川嶋ひとみ(2019)「国語教育における「想像力」と「イメージ」に関する一考察」『学芸国語教育研究』37巻 84-94
- 生野金三 (2008)「国語科教育法—実践的指導力の基礎の育成を志向して—」、『白鷗大学教育学部論集』2(1)37-56
- 鈴木愛理 (2014)「教員養成の国語教育学科目における教育内容と方法に関する一考察：国語教育の意義を問い続ける授業の試み」『国語教育思想研究』(8) 103 - 112
- 田中宏幸・三樹亮太(2013)「高等学校国語科における「想像力」を伸ばす学習指導の実践的研究：「ミロのヴィーナス」(清岡卓行)の授業を通して」『広島大学大学院教育学研究科紀要. 第二部, 文化教育開発関連領域』62 127-134
- 萩原茜 (2023)「中学校国語科における想像力の育成—文学的な文章を教材とする「読むこと」の授業改善を通して—」『課題研究報告書要旨集 令和4年度』
- 服部一枝(2016)「国語科教育法—実践的指導力の育成に向けて—」『開智国際大学紀要』第15号75-93
- 原田大介(2009)「国語科教員養成に必要な思想の構築：広島大学教育学部の授業「初等国語」を手がかりに」『国語教育思想研究』(1) 41-50
- 町田守弘(2008)「大学の国語科教師教育を考える—『国語科教育法』の効果的な扱い方」浜本純逸先生退職記念論文集『国際化の中の国語教育』176-187
- 文部科学省 (2017)「小学校学習指導要領(平成29年告示)」
- 文部科学省 (2017)「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編」
- 文部科学省Society5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会 新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース (2018)「Society5.0 に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」